

施策	51	緑の保全と創出	政策	5	人の営みと自然・環境が調和したまちづくり		
施策主管課	林務課	課長名	脇坂 隆文	内線	4860	政策担当部長名	水道環境部長 菅沼 文秀
施策関係課名	林務課、環境課、建設管理課、上村自治振興センター、南信濃自治振興センター						
重点施策	関連計画	飯田市森林整備計画、21「いいだ環境プラン・環境モデル都市行動計画」・飯伊地域林業将来ビジョン					

1 施策の目的	
目的	対象 ①市内の緑(森林・動植物) ②生活環境 ①②は対象指標は同一 意図 水や緑が保全、再生されて増える。

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
① 市域面積	km2	658.76	658.76	658.76	658.76		658.76
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理							
① 森林面積	ha	55,766.0	55,724.4	55,740.0	55,740.0		55,540.0
② 森林の間伐面積	ha	-	739.68	648.22	422.99		366.0 574.0
③ 森林の間伐面積のうち搬出間伐面積	ha	-	28.87	51.78	156.53		165.0 52.0
④ 搬出間伐の割合	%	-	3.9	8.0	37.00		45.1 9.0
⑤ 松川中流域で発見される水質階級 I の指標生物の割合	%	-	72.0	75.0	※ 66.7		75.0
⑥ 全市一斉河川美化活動に参加した世帯の割合	%	-	76.0	52.8	49.7		78.0

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	①適正な森林の管理及び整備の啓発活動と補助施策等の普及啓発 ②市民ボランティアの養成(県林業総合センター林業作業体験講座) ③里山の適正管理の啓発活動 ④水質保全対策の実施 ⑤家や周辺の美化と緑化の啓発	① 地区懇談会等説明会の参加者数	229	208		250 500
		② 養成した市民ボランティアの数(延べ)	838	726		600 350
		③ 育樹祭等、里山整備の体験実習交流事業の実施回数(回)	4	4		6 8
		④ 下水道施設の普及率(下水道本管布設)	95.0	96.0		100
		⑤ 河川の水質目標の達成率	81.8	80.0		90.0

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項
市民等	個人(森林所有者)	・適正な所有森林の管理及び整備 ・山腹崩壊等の情報提供	・森林整備実施面積	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種希少野生植物保護のための防護柵設置・修繕へのボランティア参加 ・全市一斉河川美化活動に市民参加(約5割の世帯が参加) ・天竜川の環境美化活動へのボランティア参加
	個人(ボランティア)	・森林整備への参加協力	・森林整備への参加協力数	
	市民団体(自然保護団体)	・自然に関する研究、啓発	・団体数、活動数、参加者数	
	市民(個人)	・汚濁水を流さない ・家や周辺の美化と緑化を行う	・水洗化率 ・家や周辺の美化と緑化をしている市民の割	
	地域団体	・地域の公共空間の美化と緑化	・美化緑化活動の回数 ・美化緑化活動への参加者数	

3 平成24年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

- 計画どおり取り組めた
- おおむね計画どおり
- あまり取り組めなかった
- 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

- 進んだ
- ある程度進んだ
- あまり進まなかった
- 進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・成果指標としている、森林面積、間伐面積、搬出間伐面積・割合、指標生物に関する指標については、国の基準等の変更を調整すれば良好な数値となっている。
 ・全市一斉河川美化活動では、参加割合は減少傾向にあり課題と捉えている。
 ・貴重植物群落の保全や、環境調査員の育成、里山整備、治山事業も計画どおり進んでおり、全体の評価としては「ある程度進んだ」と評価した。

【事務事業群テーマ別の評価】

< 貴重な植物群落の保全 >

・ボランティア活動でヤシャイノデの防護柵の点検を行い、次年度に修繕を行う予定。

< 環境調査員の育成 >

・専門分野の方を講師として環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図った。

< 里山・市有林等の保全 >

・長野県森林づくり県民税活用事業で、集落周辺の里山を整備し居住環境の改善と景観対策を図った。

・小学校のビオトープの木製構造物の修繕に地元の間伐材を利用し、域産域消に努めた。

・鳥獣被害を防止するため、森林と農地の境界周辺において藪払いや除間伐を実施した。

< 崩壊地等の復旧 >

・民有林は県施工の治山工事を、また松川入に於いては国の直轄治山を施工していただいております、市としては治山工事で必要な進入路である林道の改良工事を行って、直轄治山工事に協力している。

< 市内公共施設の緑化 >

・毎年市民の皆さんに協力していただいている「緑の募金」の還元金を利用し、全市内の公共施設の環境緑化を推進している。

< ボランティアの育成 >

・天竜川の環境美化活動に於いて、毎年多くの市民の方やボランティアの皆さんが出労して、大変な仕事をしています。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

・希少野生植物保全の目標は、約20年前の状況(部分的に下層植生はヤシャイノデなどが覆う状況)まで復活させる。
 ・次期環境基本計画策定に向けて、希少野生植物の調査を行う。
 ・環境を自分の手で改善する活動の一つとして、全市一斉河川清掃実施を呼びかけるが、細部について検討の必要がある。
 ・獣が森林から農地へ侵入してくる被害を防止するため、森林と農地の境界周辺において藪払いや除間伐を引き続き実施する。
 ・長野県森林づくり県民税が引き続き5年間継続になることにより、更に里山の森林整備や森林税活用事業を県へ要望していく。